

# エグゼクティブサマリ

## 1. プリンター市場動向調査

### 1.1 2018年の市場実績

2018年のプリンター市場は、ワールドワイドトータルで1億581万台となった（前年比100%）。方式別では、ドットインパクトプリンター、インクジェットプリンターは前年比マイナス、電子写真プリンターは前年比プラスとなった。

2018年のドットインパクトプリンター分野の市場実績は256万台となった。（前年比96%）最大市場である中国は2016年の税制改革に伴う需要増加の反動が2017年以降継続しており、対前年97%の170万台となった。

インクジェットプリンター分野の市場規模は6,685万台となった。（前年比98%）先進国地域は前年を下回る実績となり、3,930万台（同96%）、新興国地域は前年を上回る実績となり、2,755万台（同102%）となった。

電子写真プリンター分野の市場実績は3,640万台となった。（前年比104%）2017年に過去2年の落ち込みから回復し、2018年も引続き堅調に推移した。先進国地域が1,457万台（同102%）、新興国地域が2,183万台（同105%）となった。

### 1.2 2021年までの見通し

2021年の全世界のドットインパクトプリンター市場は台数ベースで230万台と見通した。（2018-21年 年平均成長率 -3.5%）

2021年の全世界のインクジェットプリンター市場は6,811万台（年平均成長率 +0.6%）と見通した。SFP (Single Function Printer) の世界市場は546万台（同 -5.4%）、一方MFP (Multi Function Printer) の世界市場は6,264万台（同 +1.2%）の規模になると見通した。

2021年の全世界の電子写真プリンター市場は、3,732万台（年平均成長率 +0.8%）と見通した。モノクロ/カラー別では、モノクロが2,773万台（同 -0.6%）、カラーが960万台（同 +5.5%）になると見通した。カラー化率は徐々に上昇し2021年に26%になると見通した。

上記の各カテゴリーの合計として、2021年のプリンター市場は、ワールドワイドトータルで1億773万台（年平均成長率 +0.6%）になると予測した。

## 2. プリンター技術動向調査

電子写真プリンターの 2018 年の発売機種数（回答機種数）は、プリント・オン・デマンド（以降 POD と略す）用途のプリンター※を含まない数として、SFP（Single Function Printer）が 7 社 20 機種、MFP（Multi Function Printer）が 7 社 109 機種である。一方 POD は 3 社 20 機種（SFP：10 機種、MFP：10 機種）である。

※ プリント・オン・デマンド（Print On Demand）用途のプリンターとは、「プロダクション市場向け」「オンデマンド・パブリッシングシステム」「企業内プリンティングから商業印刷まで対応」等を銘打ったプリンターを意味する。

SFP は 2008 年の 69 機種から減少傾向が続き 2012 年以降は 40 機種を下回る発売機種数で横這い傾向であった。2016 年と 2017 年は連続して 40 機種を上回ったものの、2018 年は前年の半数以下の 20 機種と過去最少の機種数となっている。（ただし、2007～2009 年までは POD を含んだ数値であるため、数字の見かけよりは減少幅は小さい。）2018 年の減少は一過性のものと考えており、今後の動向に注目したい。

MFP は 109 機種（POD 除く）と 2017 年の 3 倍増となり、2015 年、2016 年の 100 機種超え相当の機種数となっている。過去に 2013 年から 2014 年にかけて大幅減少を記録した翌年には減少前の水準に戻したのと同様に、2016 年から 2017 年にかけて大幅減少した分が 2018 年には戻った形になっている。

POD は 2015 年以降 3 年連続で増加傾向継続しており、今後の動向に注目したい。

インクジェットプリンターの 2018 年の国内発売機種数は、SFP が 5 社 19 機種、MFP が 4 社 34 機種、LFP（Large Format Printer）が 4 社 50 機種である。

SFP は減少傾向が 2015 年に底を打ち、絶対数は少ないものの、3 年連続での発売機種数増による反転の兆しがうかがえる。MFP は年ごとの増減が繰り返されており、2018 年は平年並みの発売機種数であった。LFP は 2017 年に一時的な減少はあったものの、2018 年の発売機種数は前年の落ち込みの大部分をカバーしており、単年では調査開始の 2007 年以降最多の機種数となっている。

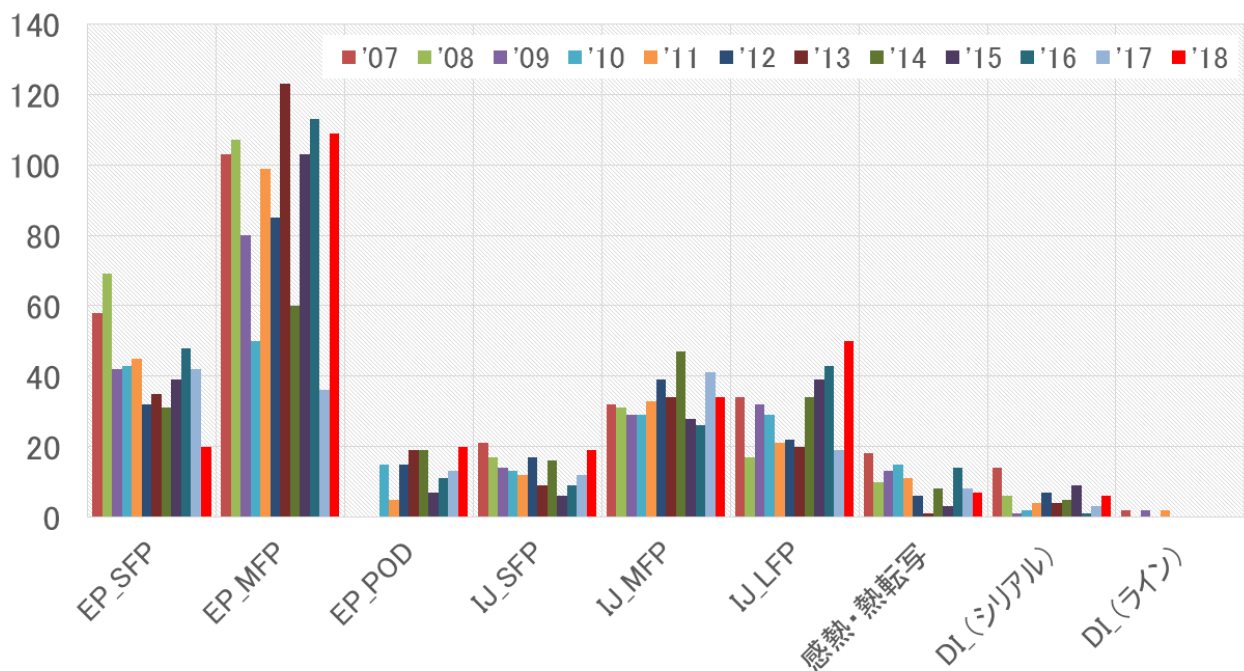
インクジェットプリンターでは、2014 年から集計を始めたプリンターの訴求用途から、これまで主体だった家庭用に加えて事務用の発売が定着しており、事務用、A3 サイズ対応機、両面自動読取機能搭載等、使用用途に応じて特徴を訴求した製品が継続して発売されている。2016 年から発売されている CISS 方式機種（CISS：Continuous Ink Supply System インク連続供給）、2017 年から発売されている製品価格設定がなく印刷枚数に応じた課金体系の機種は、どちらも発売会社は 1 社から 2 社に増え継続して発売されている。

感熱・熱転写プリンターの国内発売機種数は、3社7機種である。2007年から減少傾向が見られ、2013年には発売機種数が1機種にまで減少していた。その後2014年から2017年までは3機種から14機種の間で毎年増減し2018年は7機種と前年同等となっている。これらの増減は発売機種数の50%以上を占める本調査報告書の調査対象となっている会社からの業務用ラベルプリンターの発売周期と、家庭用プリンターの発売周期に影響を受けているためである。カラーの印刷方式では、2018年のカラー機種4機種は全て感熱カラー方式となっている。

ドットインパクトプリンターの国内発売機種数はシリアルタイプが2社6機種である。ラインタイプは2012年以降7年間発売がない状況が続いている。全体の発売機種数は少ないものの、レガシーなシステムの継続運用や、埃、塵などの多い作業環境での印刷需要など、古くからの業務形態を維持している市場で、これらの需要に応える特徴ある製品を継続投入することにより一定のポジションを堅持している。

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
電子写真 (EP)	161	176	122	108	149	132	177	110	149	172	91	149
SFP	58	69	42	43	45	32	35	31	39	48	42	20
MFP	103	107	80	50	99	85	123	60	103	113	36	109
POD	PODとしての分類設定無し			15	5	15	19	19	7	11	13	20
インクジェット (IJ)	87	65	75	71	66	78	63	97	73	78	72	103
SFP	21	17	14	13	12	17	9	16	6	9	12	19
MFP	32	31	29	29	33	39	34	47	28	26	41	34
LFP	34	17	32	29	21	22	20	34	39	43	19	50
感熱・熱転写	18	10	13	15	11	6	1	8	3	14	8	7
ドットインパクト (DI)	16	6	3	2	6	7	4	5	9	1	3	6
シリアル	14	6	1	2	4	7	4	5	9	1	3	6
ライン	2	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0

### 機種数



## プリンターの呼称について（解説）

本年度の報告書では、プリンターの呼称について下記のように用語の統一を図った。

プリンターの利用語表記については、「JEITA IS-15-情端-7 プリンターカタログ用語集」(<http://home.jeita.or.jp/cgi-bin/page/detail.cgi?n=873&ca=1>)を参照されたい。

### ・電子写真プリンター

定義：感光体面に静電潜像を形成させ、トナー等により現像後、普通紙等に転写、定着させる方式を用いたプリンター

(注釈1)「ページプリンター」を電子写真プリンターとして使用する場合はあったが、「ページプリンター」は「シリアルプリンター」や「ラインプリンター」と並んで印刷動作を示す用語に位置づけられているため、印刷方式としては「電子写真プリンター」の用語を使用することとした。

### ・インクジェットプリンター

定義：インク粒子や小滴を用紙に噴射させて文字や画像等を形成する方式を用いたプリンター

### ・ドットインパクトプリンター

定義：文字や画像を複数の点（ドット）で表現し、それぞれの点に対応する印刷ヘッド内の金属製のワイヤーを、インクリボンの上から媒体に対して打撃することで印字する方式を用いたプリンター

### ・感熱・熱転写プリンター

定義：記録用紙の感熱媒体に熱を与えることにより化学反応を与えて可視像を形成する方式、または記録用紙に接触させたインクリボンあるいはインクシートに熱を与えることによりインクを用紙に転写する方式を用いたプリンター

(注釈2)「プリンター」は、出力機器という意味と、複合機あるいは「MFP (Multi Function Printer)」に対する単機能機の意味で使用される場合がある。本書では、特に断りがない場合は「出力機器」という意味で使用する。特に、単機能機に限定する場合は、「単機能機」あるいは「SFP (Single Function Printer)」と呼称する。